

# 名詞句省略の諸相

小 川 洋 通

(1982年10月20日受理)

## ON NOMINAL ELLIPSIS

Hiromichi OGAWA

### I

省略 (ellipsis, or omission) は、典型的に、談話構造 (text) にかかわることである。このばあい、省略された要素、いわゆる Jespersen のいう、潜在的 (latent) 要素が、文法的に容易に補いうるものであり、これは、また論理的省略 (logical ellipsis) と呼ばれることもある。<sup>(1)</sup>

繰り返えしあらわれる共通な要素は、そのまま繰り返えされること (repetition) もあるが、一般には、代用 (substitution) ないし省略がおこなわれる。こうすることによって、談話を簡潔にし、また意味のつながりを明確にして、構造をより緊密にするのである。

省略は代用と密接な関係にあるが、省略を定義すれば、それは、ゼロ代用 (substitution by zero, or substitution without a substitute) ということである。

省略、代用は、指示 (reference)、その他接続詞 (conjunction)、語いのつながり (lexical cohesion) とともに、つながり (cohesion) と呼ばれる。<sup>(2)</sup> これは、談話内のある構成素の解釈が、他の構成素の解釈に依存しているということである。省略、代用、指示の例を示せば次のようである。

(1) a. This is a fine hall you have here.

I'm proud to be lecturing in it.

b. This is a fine hall you have here.

I've never lectured in a finer one.

c. This is a fine hall you have here.

I've never lectured in a finer.

a. が指示、b. が代用、c. が省略。

本稿では、Halliday and Hasan (1976) によりながら、名詞句省略をみることにするが、省略には、

ほかに動詞句省略 (verbal ellipsis)、節省略 (clausal ellipsis) がある。

### II

#### 2.1.

名詞句省略には、一種の格上げ作用がともなう。つまり、それは省略によって、ある語の機能が、修飾語 (modifier) の地位から主要語 (head) の地位に、いわば、引きあげられるからである。たとえば、次の例をみてみよう。

(2) Four other oysters followed them, and yet another four.

ここにおいては、一つめの four は数詞 (numeral) であり、修飾語として働いているが、二つめにおいては、それが主要語として働いている。

このばあい、省略されている要素は、ほんらい主要語である、名詞の oysters である。したがって、それを、たとえば次の (3 a., b.) のように、補ってとらえることができる。

(3) a. another four oysters.

b. another four of the oysters.

しかしながら、次のようなばあいには、b. の形を考えることが不可能である。

(4) Which last longer, the curved rods or the straight rods? - The straight are less likely to break.

一般に、b. のような部分限定詞 (partitive qualifier) をともなう形が可能であるのは、省略形が、ある集合体の部分集合を示すときである。

また、次に示すように、b. の形は、単数形にも複数形にもなりうる。

(5) a. How did you enjoy the exhibition?

— A lot ( of the exhibition ) was very good, though not all.

- b. How did you enjoy the paintings ? —  
A lot ( of the paintings ) were very good, though not all.

名詞句省略の型を示せば、それは次のようになる。

- (6) Which hat will you wear ?

This is {  
a. the best.  
b. the best hat.  
c. the best of the hats.  
d. the best of the three.  
e. the best you have.

ここに、*the* は指示詞 ( deictic )、*three* は数詞、*best* は形容詞 ( epithet )、*hat* は事物 ( thing ) をあらわす普通名詞 ( common noun ) である。

a. は省略形、b. は非省略形、c. も非省略形、d. は部分限定詞それじたいに省略を含むところの省略形、e. も省略形。

## 2. 2.

名詞句省略には、前提 ( presupposition ) が含まれる。それでは、その前提の範囲は、どのようなものでありうるのか。たとえば次のような例をみてみよう。

- (7) Here are my two white silk scarves.

- a. Where are yours ?  
b. I used to have three.  
c. Can you see any black ?  
d. Or would you prefer the cotton ?

a. において指示詞の *yours* は、事物をあらわす *scarves* のほか、分類詞 ( classifier ) である *silk*、形容詞である *white*、さらには数詞の *two* を前提として含む。b. においては、*three* が前提として、*scarves*、*silk*、*white* を含む。c. においては、*any black* が、*scarf* と *silk* を前提として含む。d. においては、*scarf* のみが前提となっている。

このことから、次のことがいえる。事物は、つねに前提とされる。もし、主要語が指示詞であれば、さらに数詞、形容詞、分類詞を前提として含む。もし、主要語が数詞であれば、さらに形容詞、分類詞を前提として含む。もし、主要語が形容詞であれば、さらに分類詞を前提として含む。もし、主要語が分類詞であるなら、さらに前提として含むものはなく、事物のみが前提となる。

したがって、ここに前提となりうる要素は、次の

ような序列をなしていることがわかる。

- (8) 指示詞—数詞—形容詞—分類詞

このように、可能な前提の範囲は、名詞句類の構造によって異なるのである。このばあい、その範囲は、省略形において主要語として働いている要素の後にきうるものであり、その前にくるものは、前提の範囲から除かれる。

ただし、省略形における主要語と同等なものは、前提の範囲から除かれる。

- (9) The first three buds all fell off.

We'll have to watch the next.

ここに *three* は、*next* と同じく数詞であり、このばあい、前提には含まれないことになる。

省略形の主要語として働く要素が、前提の範囲に含まれうる一連の要素(8)の、右方にくるにしたがって、省略形よりは、代用形をとる傾向がある。したがって、分類詞を含む ( 7 d. ) の *the cotton* は、むしろ *the cotton one* のような形をとり、また、形容詞を含む ( 7 c. ) の *any black* は、*any black one* のような形をとるのが一般のようである。

前提は、必ずしも、先行する非省略の形、つまり前提となりうるものを、すべて含むというわけではない。次のような例をみてみよう。

- (10) Don't you like those three little white  
eighteenth-century stone cottages ? —  
I prefer mine.

このばあい、*mine* が意味するのは、*my three little white eighteenth-century stone cottages* ばかりでなく、たんに *my cottage* でもありうる。さらには、*my large red Elizabethan brick and timbered cottage* でもありうる。

名詞句省略において前提となる要素は、(8)の順序にしたがい、その蓋然性 ( probability ) に度合のみられることがわかる。

どの名詞句省略においても前提となる要素には、事物があり、それは、つねに前提とされる。(8)の序列を右から左にゆくにしたいが、前提として含まれる度合は減少する。たとえば、分類詞は前提として含まれやすく、形容詞、数詞にゆくにしたいが、それらは前提として含まれにくくなる。指示詞は、ふつう前提として含まれることはない。

さらに、前提となる要素は連続的でなければならない。したがって(10)において、*mine* が、*eighteenth-century stone* を除いた *three little white cottage* を前提とすることはない。

これまで見てきたことから明らかなように、名詞句省略における主要語は、新情報 (new information) をにない、そこに音調の中心がある。

### III

分類詞は、一般に、主要語となりにくい。それは、分類詞が、また事物としてあらわれうる語であるため、省略形とは解されないことによる。この分類詞と形容詞は、すでに述べたように、省略形より、むしろ代用形をとる傾向にある。それに対して、指示詞と数詞のばあいには、代用形よりは、むしろ省略形をとる傾向がある。

ここで、省略形の型の種々相をみることにしよう。

#### 3.1. 指示詞 (deictics)

##### 3.1.1. 特定の指示詞 (specific deictics)

possessives : *Smith's, my father's ; mine, ours, yours, his, hers, theirs.*<sup>(4)</sup>

既出の例を参照。

demonstratives : *this, that, these, those, which.*

(11) Take these pills three times daily.

And you'd better have some more of those too.

##### 3.1.2. 非特定の指示詞 (non-specific deictics)

*both, all, some, any, each, either, neither, no.*

(12) a. The men got back at midnight. Both were tired out.

b. The men got back at midnight. All were tired out.

c. \* The milk couldn't be used. All was sour.

*all*は、質量名詞 (mass noun) のばあいには、省略形がない。もちろん、対応する非省略形であれば、よい。All the milk was sour.

(13) a. These apples are delicious.

Let's buy some.

b. I want a map of the Lake District.

I want some maps of the Lake District. }

Have you got any ?

c. Write an essay on the Stuart kings.

Two pages about each will do.

d. Smith and Jones are on holiday.

I wonder if either has left an address.

e. His son went into business.

Neither succeeded.

f. I hope no bones are broken ? — None to speak of.

上例 f. にみられるように、*no* は *none* によってあらわされる。

##### 3.1.3. 指示後辞 (post-deictics)

*same, other, different, identical, usual, odd, obvious, etc.*

これらは、指示詞の後に生ずる形容詞で、一種の指示詞の働きをしている。また、これらは、次に示すように、数詞を後にしたがえる。したがって、数詞が、その前にくる通常の形容詞用法と異なっている。

#### (14) 指示詞

the identical three questions

the usual two comments

a different three people

the odd few ideas

the obvious first place to stop

形容詞

three identical questions

two usual comments

three different people

a few odd ideas

the first obvious place to stop

(15) a. I'll have two poached eggs on toast please.

b. I'll have the same.

*same* は、また、ひろく代用としても扱われる。

(16) I've used up these three yellow folders you gave me. Can I use the other ?

このばあい、*the other* は *the other three yellow folders* を意味せず、*the other yellow folder* か *the other folder* を意味する。

#### 3.2. 数詞 (numeralives)

##### 3.2.1. 序数詞 (ordinals)

*first, next, last, second, third, forth, etc.*

(17) Have another chocolate. — No thanks ; that was my third.

##### 3.2.2. 基数詞 (cardinals)

*one, two, three, four, etc.*

(18) a. Have another chocolate. — No thanks; I've had my three.

b. "The other messenger's called Hatta.

I must have two, you know. One to come, and one to go.”

### 3.2.3. 不定数量詞 (indefinite quantifiers)

*much, many, more, most, few, several, a little, lots, hundreds, etc.*

(19) a. Can all cats climb trees? — They all can; and most do.

b. “You ought to have a wooden horse on wheels, that you ought!” — “I’ll get one,” the Knight said thoughtfully to himself. “One or two — several.”

### 3.3. 形容詞 (epithets)

#### 3.3.1. 形容詞の最上級 (superlatives)

(20) a. That clown is the finest I have ever seen.

b. They are fine actors. That clown is the finest I’ve ever seen.

*the finest*が意味するのは、a.においては*clown*であり、b.においては、*actor* ないしは*clown*である。

(21) a. Apples are the cheapest in autumn.

b. Apples are cheapest in autumn.

a.においては、たとえば*fruit*のようなものが省略されていると考えられる。それに対して、b.においては、名詞句省略を含まず、それは、“*cheaper in autumn than at other times*”の意味である。

#### 3.3.2. 形容詞の比較級 (comparatives)

(22) I’ll buy you some prettier.

*some prettier*が含む名詞句は、単数、複数名詞でも質量名詞でもよい。

(23) a. Mary is the cleverer.

b. Mary is cleverer.

a. は、“the cleverest of the two” という意味で、省略を含む。が、b. は名詞句省略を含まない。

#### 3.3.3. 色彩の形容詞 (color adjectives)

(24) a. The green suits you very well.

b. Green suits you well.

a. は省略である。b. は名詞であって、省略ではない。なお、a. は、*the green one* という代用形になるのが普通である。すでに述べたように、形容詞や分類詞のばあいには、省略形よりは代用形が好まれるのである。

以上、本稿では、名詞句省略についてみてきたが、さらに動詞句省略、節省略、さらには代用、指示、

接続詞、語いのつながり等との関係について述べなければならないが、それらについては、稿を改めなければならない。

## 注

(1) Jespersen (1937, p. 152)。

(2) Sweet (1891, §534)。

(3) Halliday and Hasan (1976)。

(4) Absolute genitive (or possessive)。

## 参考書目

Halliday, M.A.K. and R. Hasan. 1976. *Cohesion in English*. London: Longman.

Jespersen, O. 1937. *Analytic syntax*. New York: Holt, Rinehart & Winston.

Leech, G.N. and J. Svartvik. 1975. *A communicative grammar of English*. London: Longman.

Quirk, R. et al. 1972. *A grammar of contemporary English*. London: Longman.

Sweet, H. 1891. *A new English grammar. I*. London: Oxford Univ. Press.